

新入職員の皆さんへ

特定医療法人財団石心会 理事長 石井 暎禧

今年、新入職員として、グループ各事業所に配属されたばかりの皆さん。

グループの事業所は、下記のような理念と基本方針をかかげ、これにもとづく運営が行われている事を実感することと思います。

しかしながら、組織というものは年月を経ると、こうした理念や方針が単なるお題目になって形骸化するリスクを例外無くはらんでいるものです。その事は、伝統ある名店や老舗の多くが産地偽装、賞味期限の改ざん等で社会から葬り去られた事を見ても明らかです。医療機関と同様です。その様な事を防ぎ、組織を発展させることこそ、新しい血である新入職員の仕事です。組織が、初心を忘れず、常に自己革新を遂げていく為に皆さんの一層の努力を期待します。

■理念(3つの目標)

1. 医学的根拠に基づく高度な医療
2. 患者主体の医療
3. 地域に密着した医療

■基本方針

1. 常に向上心を持ち、医学知識、医療技術、診療態度のレベルアップに努めます。
2. 医療事故の発生や院内感染を未然に防ぐ為に医療安全管理を徹底して行います。
3. 患者に対し迅速で的確な情報を提供し十分な説明と同意を心がけ、患者の意志と人権を尊重した医療サービスを提供します。
4. 患者の病気についての個人情報情報の保護について万全を期します。
5. 地域の声に謙虚に耳を傾け、地域住民の欲する医療を行うと共に病気を未然に防ぐため、保健・予防知識の普及に努めます。
6. 地域の医療・福祉施設、行政機関との連携を密接にして患者にとって最適な医療を行います。
7. 国、地方自治体、NGO等に協力して災害救援活動を行います。
8. 医療のみならず地域文化の向上の為に努力します。

本紙タイトル『海燕』は、M・ゴーリキーの散文詩《海燕の歌》（1901）に由来しています。

その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海。戸惑い騒ぐばかりの陽らの群を尻目に、
海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

(編集部によるダイジェスト)

★トピックス①

新病院の土地取得 いよいよ着工へ

川崎市幸区大宮町の川崎幸病院の移転用地は、これまで、工業地域であり、病院を建てられない地目でしたが、この度川崎市都市計画審議会で病院を建てられる地域に変更がなされたため、去る3月24日に正式に土地の売買が成立し、石心会の所有土地となりました。

現在、設計は全て完了、建築業者の選定を経て10月に着工となります。計画は少し遅れましたが、建物の完成時期・開院時期は共に、2011年12月・2012年4月で変更はありません。

新病院は、下記のようなコンセプトで開院する予定です。

- ①地域の病床不足に対応し、採算が取れる病床数350床規模の病院
- ②救急車を断らない病院
- ③手術の需要に完全に対応できる手術室数を有する病院
- ④がん患者に対し、外科手術、放射線治療、化学療法をバランスよく提供できる病院
- ⑤特に、4つの医療センターに関しては、地域で最高の医療水準を実現する病院
- ⑥入院透析患者・通院透析患者をいつでも受け入れられる病院(通院35床/入院15床)
- ⑦個室ニーズに対応できる病院(20床)
- ⑧地域の災害医療の中心となる病院
- ⑨地域の開業医さん、他病院の医師が訪れやすい病院
- ⑩保育施設の完備した病院
- ⑪院内で音楽会が開催できる病院

★トピックス②

さやま総合クリニック「健診センター」開設

— 女性検診専用コーナー“さくらホール”も併設 —

さやま総合クリニック 副院長 菅野壮太郎(健診センター担当)

この度、さやま総合クリニック内4階に健診センターを開設しました。

「人間ドック」という言葉は昭和29年読売新聞に書かれたのが始まりですが、長い人生を船の航路にたとえて、総合身体検査をドックに例えたユニークな言葉として注目され、今日では広く使われるようになりました。

また、近年厚生労働省はメタボリック対策をはじめ、生活習慣病対策に力を注いでいます。平成20年より始まった特定健康診査という制度においては、自企業内職員の健康管理はもとより、医療費の適正化を期待して企業の健康保険



「さくらホール」プライバシーに配慮されたフロア設計

組合も力を入れてこれを推進しています。これまで、狭山市内には大きな健診センターはなく、また乳癌・子宮癌検診を同時に受診できる医療施設もありません

— 川崎幸病院 —

でした。狭山市検診は通年受診ではなく、受診の期間が限定され、医療機関の混雑で、毎年多数の検診受診できない市民がおり、十分な地域予防医療ができていませんでした。

そのような環境の中で、高度な医療機器を駆使し、質の高い医療内容を実現し、かつ市民が気軽に特定健診、企業健診、

狭山市がん検診が受診できる施設として当センターは誕生しました。また女性受診者に配慮した女性検診専用コーナー“さくらホール”を併設したのもこの施設の特徴です。

私達は、当施設が誕生したことによって、地域・職域の予防医学に大いに貢献できることと確信しています。

★トピックス③

狭山病院 新医局完成

■将来の常勤医師100名体制に向けて整備着々

狭山病院では3月末、DPC・機能評価再審に向けた施設整備の一環である管理棟の改修工事が概ね完了、これにより新医局が完成しました。これは医師体制を現在の70名から将来の100名体制へと拡充する同院のビジョンに沿ったもので、延べ面積256.87㎡の新医局内には医師当直室、洗面所・シャワー室が完備され、診療部専用カンファレンスルームも新設、各科カンファレンス・症例検討会・研修医向け勉強会の開催もより活発化する見込みです。狭山病院の伊東医局長は、“院長から研修医までが同じスペースに席を置き、一堂に会することが出来るこの新医局で、将来の常勤医師100名(初期研修医10名を含む)体制の構築を目指して、さらに地域

医療推進に邁進していきたい”と抱負を語りました。

■薬剤室、検査室等の中央棟も完成

同院ではまた昨年8月から工事を進めていた中央棟も完成、延床面積506.16㎡、3階建の建物には1階に薬剤室(調剤室)、2階に薬剤管理指導室・生化学検査室・細菌検査室・感染管理室(ICT)、3階に診療情報管理室・図書室・職員休憩室・検体室を設置、1階の薬剤室には調剤スペースの他、化療調製室(抗癌剤混注)・無菌製剤室(TPN混注、院内製剤)が設けられており、内服調剤・注射調剤共にオーダーリングに連動させた自動調剤機器は一包化並びにバーコードラベル発行等により医療ミスの回避に大きく貢献するものと期待されています。



〈新医局での朝カンファレンス：広いスペースで活発な意見が飛び交う〉

★トピックス④

NST活動報告

狭山病院 NST委員会 大川 清

『NST』とは「Nutrition Support Team」（栄養サポートチーム）の略で、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師など各分野の専門スタッフが結集し、患者に適切な栄養管理を行うチームのことです。栄養管理はすべての疾患の基本的治療と言われ、その効果はNST発祥元のアメリカをはじめ各国で広く証明されてきており、アメリカでは総合病院の半数以上、日本でもH18年度診療報酬改訂で「栄養管理実施加算」（患者1人1日につき12点）が新設されたことを機に、多くの医療機関で設置されるようになりました。

NSTの役割は ①栄養アセスメントを行い、栄養管理の必要性を判定し、②適切な栄養管理が行われているかをチェックし、③最適な栄養管理法を提言し、④栄養管理に伴う合併症の予防・早期発見を行うことです。栄養療法と投与経路のアルゴリズムのガイドライン（日本静脈経腸栄養学会）からも、消化管が機能している場合には早期に経腸栄養を開始することになっていますが、多くの治療上のバリエーション（変化要因）から漫然と静脈栄養が継続されているケースも見られました。経腸栄養は生体を経由した自然な栄養補給でもあり、同時に医療資源の節約、感染症のリスク回避も可能です。以下の表は当院でNST回診が始まったH19年度と今年度（H20年度）の3ヶ月間のTPN基本液の処方数と延患者数ですが、明らかにTPN処方数は減少しており、その全てがNSTだけによるものとは言えませんが、確かな効果を生んでいるものと考えられます。

TPN 製剤	H19 年度 12～2 月	H20 年度 12～2 月	増 減	増減比
薬価合計	¥2,389,886	¥1,654,142	¥735,744	69.2%
払出品数	2,192	1,508	684	68.8%
処方オーダー 延べ人数	1,586	1,111	475	70.1%

※ ICU、HCU、SCU等はオーダーリングはないため含まれない
※ 各数字は3か月間の合計値

去る1月29日～30日に行われた第24回日本静脈経腸栄養学会（鹿児島）へは委員会メンバーより医師2名、栄養士3名、看護師2名、薬剤師、PT、OT、ST、臨床検査技師が各1名と総勢12名が参加、成果発表を行いました。今後は、さらに質の高いNSTを院内に普及させるため、委員会の啓蒙活動と活性化を図りたいと考えます。

※ TPN：（Total Parenteral Nutrition）高カロリー輸液（こう・ゆえき）

※ 栄養療法と投与経路のアルゴリズム：
米国静脈経腸栄養学会（ASPEN）及び日本静脈経腸栄養学会（JSPEN）のガイドラインに示されている経腸栄養法、静脈栄養法の適切な栄養療法選択指針。アルゴリズムとは物事を進める手順を明確に定式化した数式、フローチャートなどを意味する。



《読書のすすめ》

「女刑事 音道貴子 風の墓碑銘（エピタフ）」〈上・下刊〉

乃南アサ 著 新潮文庫 税込み：540円

さいわい鹿児島田クリニック 女性外来 医師 百瀬 栄子

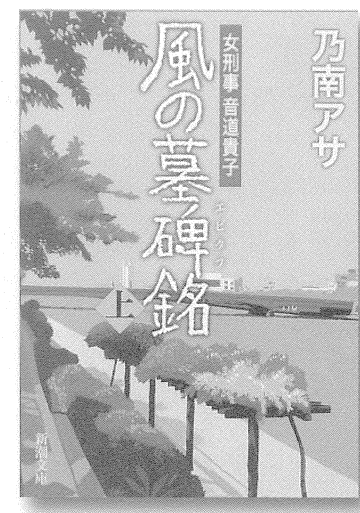
ご存じ、乃南（のなみ）アサ氏による女刑事音道貴子（おとみちたかこ）シリーズ第6作です。

音道貴子ファンの私としては書店に発売された途端、即買即読でした。このシリーズの魅力は、登場人物のそれぞれが実在するのではと思わせるような存在感です。登場人物の各々が背負っている人生の歴史が感じられ事件の経過が季節の変化として表現されていて、話の流れに引き込まれついつい先を読み進めずにはいられなくなります。

風の墓碑銘（エピタフ）では、直木賞受賞作である第1作目の「凍える牙」でコンビを組んだ女性蔑視の権化のような中年刑事滝沢保との再コンビです。お互い、仕事し難いと思っはいるものの滝沢は、今までの経緯から音道貴子の仕事ぶりには、一目置いていて評価をしています。が、しかし音道貴子のほうは、彼女の性格や男社会の象徴のような警察という組織の中で滝沢と馴染めずにいるのです。そして、滝沢に対し気を許すことができないままです。その事が又滝沢にとって何を考えているのかわからない可愛げのない女として感じさせてしまいます。ところが今回のシリーズでは、事件を解決していくなかで音道貴子は滝沢と事件について考え方や感じ方が同じことに気づき違和感や戸惑いを感じつつ次第に滝沢を受け入れ評価が上がっていきます。（ただし、相変わらず好きにはなれませんが）この二人の関係は、できれば1作目の「凍える牙」

2作目の「花散る頃の殺人」の中におさめられている「茶碗酒」3作目の「鎖」5作目の「喰う闇」を読んでいただくとともに興味深くまた、面白さも倍増し、今回の作品が、さらに楽しめると思います。

さて、「風の墓碑銘（エピタフ）」のストーリーですが、古い貸家だった木造の民家を取り壊した跡地から3体の白骨死体（成人男女2体と嬰兒か胎児か区別のつかない子供の骨）が発見されたことから始まります。この家の持ち主である認知症の老人が徘徊先の公園で殺されて発見されこの老人が入所していた有料老人ホームのヘルパーの一人に容疑がかけられます。この人物は、小学校入学直前に父親と8歳になる姉を殺され自らも瀕死の重傷をおわれ身重の母親がその時から行方不明であることがわかります。この先は、読んでのお楽しみとしておきます。是非、読んでみてください。音道貴子という人物にとっても魅かれるようになること請け合いです。



《趣味探訪》

『酒と薔薇ではなく読書の日々』

狭山病院 外科部長 堤 謙二

狭山病院に勤めるようになって1年が経過した。前の職場への通勤時間は15分であった。バイク通勤だったので、朝7時に起床し、30分に家を出ても、45分には病院に着き、50分には病棟に顔を出すことができた。現在は5時半に起き、6時半に家を出て、1時間強を電車の中で過ごし、8時15分ころに病院に到着し、毎日ちょっとした小旅行気分である。最初の頃は慣れなくて、本を読むどころではなかったが、1～2ヶ月も経つうちに、気持ちに余裕が出てきて、往復の通勤時間を読書に費やすことができるようになった。

元々、読書は音楽、写真、旅行、散歩、酒（焼酎、日本酒、ワイン等の収集も含め）、球戯（パチンコ：収支マイナスのためお休み考慮中）、ゴルフ（今は腰痛のためお休み中）などと並び、私のもっとも古い趣味の一つであったが、最近は読書量も減り、年間50冊も読めれば良いほうであった。（今回のお話も球戯について書こうかなあと、医局の秘書さんに相談したところ、“先生が球戯するの？意外で面白そう”と賛同してくれたのですが、家内に話すと、“何馬鹿なこと言っているの？”あからさまにあんたアホねという顔をされたので、読書の話にした次第。）読書のジャンルは問わず、純文学からミステリーものまで、出版されているのだからどこか面白いところがあるだろうと、所謂乱読である。通勤当初は週に1～2冊のペースであったが、徐々にペースが上がり、週4～5冊となってきた。そうすると購入費用も莫迦にならず、本棚も溢れかえることとなった。また毎週本屋に行ってもそうそう気に入った本が発売されているわけではない。かといってどうでもいい、あるいはまったく無名の作家の本を買うにはちょっと勇気がある。はて、如何いたしたものか。我が家の近くには歩いて10分ほどのところに紀伊国屋書店があるが、幸いなことに、さらに5分歩いたところに区立図書館がある。そう、本の保管場所に困ることがなく、お金も無駄にしない方法、図書館を活用することにしたのである。



〈今宵はどの本とお酒と肴で過ごそうか……〉

現在は2週に一度、毎週土曜日に図書館に通っている。図書館に着くと、借用していた10冊前後の単行本や文庫本を返却する。次に、日本人作家のあ行から順番に作家名、書名を探索していく、もちろんお気に入りの作家は特に念入りに。私の探すポイントはまず好きな作家である。ただし、好きな作家は既に購入して読んでしまっているものが多く、なかなかヒットしない。つぎは、新刊では買わないが、文庫本になった段階で購入してもよいかなと考えて

いる作家たち、おもにはミステリー系が多いようである。この分野の好きな作家は大変多く、30人前後の作家に大体目を通して



いる。ざっと名をあげると、東直己、伊坂幸太郎、歌野昌午、大沢在昌、岡島二人、萩原浩、奥田英朗、垣根涼介、香納諒一、貴志祐介、北村薫、桐野夏生、黒川博行、古処誠二、今野敏、佐々木譲、志水辰夫、白川道、新保裕一、高村薫、天童荒太、伴野朗、鳴海章、貫井徳郎、野沢尚、馳星周、花村萬月、東野圭吾、福井晴敏、藤原伊織、船戸与一、宮部みゆき、横山秀夫などの方々である（注、文字数稼ぎのために長々と列挙したわけではありません）。この方々の本は新刊本を除けばほぼ網羅している。ミステリーではあるが天童荒太氏の“永遠の仔”や、萩原浩の“明日の記憶”、貫井徳郎の“慟哭”、宮部みゆきの“火車”、奥田英朗の“邪魔”など、大衆小説の域を超えた名作も多い。しかし1年も経つとそれらの作家の本も粗方読みつくしてしまい、最近では純文学や歴史小説、古典小説にもつつい手を出している。恋愛小説はいまだ苦手であるが、こちらのほうは私生活で楽しむに限る。

読書の時間は通勤時間帯が約80%である。残り20%は、たとえば休日の昼間、家内に付き合わされた買物の待ち時間、これが10%弱。土曜日の昼間に調達した焼酎と肴を軽い夕食後に準備し、家族が寝静まったりリビングで、60年代のジャズを聴きながら、焼酎ロック片手に2～3時間ほどを読書に費やす、これが残り10%。いまはこの時間帯が自分の数少ないストレス解消法の一つであり、読書の一番の効能・効果となっている。軽い酔いに任せて、時には物語全体を俯瞰する神のごとく、時には物語世界を逃げまどう罪人のごとく、いろんな人間を、時間を、場所を、人生を味わっている自分がある。しかも本の世界では、読者は絶対者でありいつでもその時間を止めるのも進めるのも、中止して放り出すのも、続きを読むのもすべて自由である。そんなひと時に身を任せ、少しずつ軽い酔いと眠りに幻惑され、やがてベッドへと誘われる。

さて、今宵はどの本とお酒と肴で過ごそうか……

ミュージック・サロン



※ 今回は、「さやま総合クリニック健診センター改装記念コンサート」として行われた「第20回ヘルシーコンサート」の模様をお伝えします。

■さやま総合クリニック

第20回ヘルシーコンサート♪

今回は美しい声楽をフューチャーしたアンサンブルです。エルガーの名曲「愛の挨拶」の美しく心にしみ入る旋律で始まった演奏は聴衆の心を優しく包み込み、演奏終了直後には感動の拍手が巻き起こりました。

■日 時：3月28日(土) 15:00～16:10

■会 場：3階ピアノホール 聴衆：100名

■曲 目：エルガー／愛の挨拶、カッチーニ／アヴェマリア、ショパン／バラード第1番

※演奏家プロフィール：

【平子久江】：国立音楽大学器楽学科打楽器専攻卒。1991年シエナ・ウィンド・オーケストラに打楽器奏者として入団。第10回日本管打楽器コンクール第4位、第3回日本現代音楽演奏コンクール「競楽Ⅲ」第3位受賞。

【秋山かえで】：東京藝術大学を経て同大学院修士課程修了。矢野顕子氏のアルバム、CMレコーディングに参加。埼玉県立芸術総合高校、松伏高校非常勤講師。

【秋山さやか】：東京藝術大学作曲科卒。「四手ピアノと歌のための日本叙情歌曲集(2005)」等、多数の作、編曲作品。

【小林律子】：東京藝術大学を経て同大学院修士課程を修了。室内楽での多くの著名な演奏家との共演、NHK-FM放送出演等、多岐にわたる演奏活動を行う。現在、東邦音楽大学専任講師。



☆ヘルシーコンサートのいわれ☆

2003年3月、狭山総合クリニックの院長に就任した青山医師(現狭山病院長)が、クリニックを診療の場としてだけでなく、地域の人たちの文化的な交流の場にしたいと考え、私財でピアノを購入して提供するとともに、毎週土曜日の午後からピアノ演奏を主体にした「ヘルシーコンサート」を開催することを決めました。ホームページにも紹介していますが、このピアノは世界最高峰といわれる「スタインウェイ アンド サンズ」のコンサート用グランドピアノで、2000年のショパンコンクールで圧倒的な実力で一位優勝した中国のピアニストコンディ・リが練習用に愛用したものです。

★トピックス⑤

【川崎幸病院】

●3月3日 「川崎幸病院新築計画」説明会開催 参加者：移転先近隣住民49名

●3月24日 新病院予定地取得(川崎市住宅供給公社より石心会が購入)

●3月24日 防災訓練

●出張講演(公開講座)

・2月7日 桜本二丁目町内会主催『糖尿病について』
(講師：副院長・内科部長/沢 丞) 桜本二丁目町内会館 参加者32名

●イブニングセミナー(登録医向け勉強会)

・2月19日 『医療事故防止と個人情報保護』
(講師：医療安全管理課課長/今村寿彦) 参加者登録医11名

●救急隊勉強会(市内、鶴見の救急隊員が参加されました)

・2月18,25日 『救急外来でみられる泌尿器科疾患』(講師：泌尿器科部長/林 哲夫) 参加者計16名

・3月19,26日 『緊急内視鏡とその症例』(講師：内視鏡科科長/渡部博一) 参加者計12名

●院内勉強会/講演会

・1月19,22日 放射線科主催勉強会『MRI検査安全教育』『放射線と被曝と防護について』

・2月29日 緩和ケアチーム主催『第3回緩和ケア院内勉強会』(講師：外科医長/高橋保正)

・3月27,30日 医療安全管理委員会主催『医療機器の立ち会いに関する基準実施の説明会』
(講師：日本メドトロニック(株)、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)) 参加者110名

【川崎幸病院中原分院】

●2月28日 第6回うるおいコンサート 男女混声合唱団(早稲田大学OB、OG ぜろさん合唱団)

●3月21日 第7回うるおいコンサート ハーモニカ合奏(いこいシルバーハーモニカバンド)

●公開講座

・1月31日 『生活習慣病の予防・克服』(講師：川崎幸クリニック内科/安島美保) 参加者29名

・2月21日 『おしりの病気とその治療の最前線』(講師：川崎幸病院外科/太田竜) 参加者36名

●院内勉強会

・3月5日 『人工呼吸器を安全に使用するために ～VELAの操作・管理について～』
(講師：アイ・エム・アイ株式会社/偶田、川崎幸病院CE科/今野)

・3月27日 川崎幸病院医療安全管理委員会主催『医療機器等における医療機器の立会いに関する基準実施の説明会』(講師：日本メドトロニック(株) 中原分院から2名参加)

【狭山病院】

●1月16日 石心会狭山地区事業所合同新年会 参加者270名
※同時に永年勤続者64名(20年3名、15年13名、10年16名、5年32名)の表彰。

●2月2日 看護師復職支援セミナー 参加者5名

●2月7日 第11回コメディカル部発表会(9題発表、特別講演2題) 参加者106名

●2月13日 関東信越厚生局埼玉県との共同による社会保険医療担当者の個別指導及び入院基本料等の適時調査

●2月21日 中央棟竣工式

●2月24,26日 看護師復職支援セミナー(埼玉看護協会より依頼) 参加者7名

●3月7日 研修医症例発表会(14題発表) 参加者45名
※研修期間中に印象に残った症例を取り上げ、初期研修医6名、後期研修医8名が症例発表。

●院内勉強会

・3月4日 『医療事故防止セミナー』 参加者91名

・3月18日 『第2回保険診療勉強会』 参加者46名

●地域医療連携・公開カンファレンス

・1月23日 『MRSAを中心とした院内感染対策について』 参加者140名
(講師：グラクソ・スミスクライン株式会社感染症・抗アレルギー領域マーケティング部/高木 啓)

・1月29日 『慢性疾患疾病管理と地域連携パス』～地域連携室の役割～

(講師：東京女子医科大学病院 地域連携室/下村裕見子)

『保存期腎不全の集学的治療』

(講師：麻生飯塚病院 腎臓内科部長/武田一人) 参加者80名

- ・ 2月20日 『抗菌薬適正使用の試み～抗菌薬届出制を導入して～』(講師:薬剤室/大木孝夫)
『新型インフルエンザへの対応』(講師:副院長/青島正大) 参加者171名
- ・ 3月13日 『息づく脳』(講師:内科副部長/豊治宏文) 参加者61名

【川崎幸クリニック】

●糖尿病公開講座

- ・ 2月4日 参加9名

●気功教室 講師:臨床心理士/稲富正治

- ・ 1月14日 参加8名 ・ 2月17日 参加7名 ・ 3月18日 参加14名

●心理相談室公開講座 講師:臨床心理士

- ・ 1月26日 『うつの人を支援よう』 参加者8名
- ・ 2月23日 『子育て相談室』 参加者2名

●院内勉強会

- ・ 3月16,17日 防災講座『地震の基礎知識と心構え』(講師:川崎市危機管理室/原悟志氏)

【さやま総合クリニック】

●3月28日 健診センター改装記念コンサート ※詳細はミュージック・サロン参照

●外来糖尿病教室

- ・ 2月5日 『減塩を行いましょう』(講師:管理栄養士 係長/蒲池祐子) 参加者15名
- ・ 3月5日 『運動療法について』(講師:理学療法士/風巻奈緒子) 参加者15名

【さやま腎クリニック】

●患者勉強会

- ・ 3月19,20日 『どうしてリンを下げなければならないか』(講師:院長/小野田教高)
『低リン食について』(講師:栄養室長/大川清・係長/蒲池祐子) 参加者144名

【川崎クリニック】

●川崎地区透析勉強会

- ・ 1月13日 『心電図』(講師:副院長/西原正博) 参加者35名
- ・ 3月27日 『CKD導入からの関わり』(講師:川崎幸病院腎臓内科部長/中島豊) 参加者32名

【さいわい鹿島田クリニック】

●3月 3・4階窓を利用したウィンドウフィルム広告を施行

【アルファメディック・クリニック】

●3月12日 消防訓練 参加者32名

【川崎健診クリニック】

- 1月21,22日 全国労働衛生団体連合会 VDT健康診断実務講習会 参加者1名
- 1月23日 全国労働衛生団体連合会 選別聴力検査実務講習会 参加者1名
- 2月13,14日 全国労働衛生団体連合会 生理機能検査講習会 参加者1名

【新緑脳神経外科】

●院内勉強会

- ・ 3月5日 講演①『医療従事者のメンタルヘルスについて』(講師:看護師/藤村智美)